

事業所名 : あお空グループホーム山田

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000120		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	〒028-1321 岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51-1		
自己評価作成日	令和6年1月13日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな山間部に位置する当事業所で、利用者の皆様は日々ゆったりと過ごされており、「心で見守り 笑顔で支える」という理念の下、職員一同利用者様に対し敬意を持ち接するよう心がけております。誕生会やその他イベント時には手作りケーキを提供させて頂き、週に1~2回の割合で手作りおやつも提供しております。以前は3~4か月の季節毎に交換していたホール内の装飾は昨年あたりから概ね1カ月毎に交換し、利用者の皆様に見た目で季節や時期を感じ取ってもらえるよう心がけております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸縦貫自動車道路の山田インターから山間部に車で数分走ったところに事業所がある。集落が点在し地元の方々が参拝する関口神社が近くにあり、交通量は多くないためか住民の方々も散歩しやすい和やかな風景の中に立地している。地域住民と利用者は日々の挨拶だけでなく季節の山菜や野菜を持ち寄り下ることが多く、地域の中での見守りや火災等万が一の協力体制も整備されている。事業所では季節ごとにイベントを開催して外出したり、利用者と一緒におやつ作りをしたり、誕生会の際には手作りケーキを提供するなど喜ばれている。事業所内での生活について不定期に発行していた「広報」を今年度から年間6回発行することで、家族や関係者にさらに利用者の様子をお知らせしたり事業所を身近に感じていただく工夫をしている。また、運営推進会議に家族代表の出席や他グループホームの管理者を招くなど、多様な委員の助言や提案を運営に反映させている。「心で見守り 笑顔で支える」の理念に基づき職員全員で日々の介護評価をしながら常に向上を目指している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホール、事務室の三か所に理念を掲示し、日々の申し送り時に理念を唱和している。管理者は理念に対しての日々の評価をミーティングや職員会議時に伝えるようにしている。	職員から理念の案を募り、職員全員での話し合いして令和4年4月に新理念を決定しもうすぐ2年になる。「心で見守り 笑顔で支える」の理念は職員からは覚えやすいと好評である。室内に掲示することはもちろんであるが、理念に沿った介護が継続できるよう対応結果を振り返り、管理者から注意喚起しながらこの理念の浸透を図っている。この理念のもと、笑顔で利用者寄り添い、家族的な雰囲気大切に、利用者の要望に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路を通行している地域の方々に手を振ったり、野菜や山菜等を届けて下さるご近所様と交流している。	事業所前の道路を通行する近隣の方々とは、双方に手を振りながら挨拶をしている。近隣の方や家族の方から野菜や山菜をいただき、会話を通じて交流を図っている。また、山田中学校2年生4名の福祉体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接地域の方々を招いての勉強会等は出来ていないが、運営推進会議に参加されている地域の方々には利用者様の近況として症状や対応策等をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年3月度から運営推進会議を再開している。前回の外部評価の目標達成計画にご家族様の運営推進会議へ参加して頂くこととし、2名のご家族様に参加して頂いた。運営推進会議で頂いたアドバイスは職員会議にて職員に伝達し、可能な事は取り組んでいる。	令和5年3月開催の運営推進会議から参集方式として開催している。社会福祉協議会、町担当課、民生委員、区長、食生活改善推進委員に今年度から家族と地元の他グループホーム管理者を委員に加え、実際に参加いただいている。ほかのグループホームの避難訓練を見学してはとのアドバイスをいただき、今年度中に見学する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話での連絡が多いが、自施設の運営推進会議や他事業所の運営推進会議、町主催の研修会等で直接会った場合には情報交換させて頂いている。役場主催の認知症セミナーに使う封筒作りの作業をお手伝いさせて頂いた。	町の担当課職員には運営推進会議への出席のほか行政情報の提供など、メールや電話で連絡を取り合っており、関係は良好である。ワクチン接種については、町健康子ども課から情報提供いただいている。生活保護受給者については、振興局のケースワーカーが来所して利用者とは面談するなど、関係機関と相互の信頼関係を築きながら利用者を支援している。	

令和 5 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の割合で身体拘束廃止に関する研修会と検討会議を開催し身体拘束に対する理解を深めている。毎回の会議資料に身体拘束禁止対象となる具体的な行為を掲載し確認するようにしている。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由で行っている。	職員会議の際に3か月ごとに研修会、勉強会を開催し職員に趣旨を徹底している。スピーチロックについても、職員間で注意しあっている。身体拘束の事例はない。夜間だけ玄関を施錠し、転倒予防や離床確認のため赤外線センサーを活用している。また、2階の利用者の動向を把握するため、監視カメラ3台を設置している。	身体拘束に関する研修会は実施しているが、職員の実際の行動について自己評価する機会がないことから、身体拘束チェック表等を用いて自身の行動を振り返る機会を設け、より良い身体拘束廃止につながる取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する研修会と同日に高齢者虐待に関する研修会も行っている。日常の些細な言動も意図せず虐待となっている事もあるので職員間で確認、アドバイスし合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している利用者様はおりませんが、日常生活自立支援事業、成年後見制度の研修を自施設で行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書や重要事項説明書の内容を口頭で説明し、入居に際し不明な点があればその都度説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が職員に要望や相談がある場合には意見を聞き、人前で話しにくい場合には居室や事務室で対応させて頂いている。ご家族様には今年度から運営推進会議にも参加していただき意見や要望を頂く場合もある。	不定期だった機関紙の発行を年6回とし、利用者の生活状況を家族にお知らせし、面会時を利用して要望等を聴き取り運営に反映させている。家族からは食べ物や受診時の衣類に関することのほか、歩行が継続できるような支援の要望があり、職員間で共有しながら要望に沿った対応をしている。また利用者からは、ティッシュペーパー等の日用品購入や帰宅についての要望がある。今後、利用者ごとの生活状況や写真を添えたお知らせを作成し、家族に提供することとしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝の申し送り時、ミーティングや職員会議時に意見を聞き、可能な事は速やかに対応させて頂いている。また、連絡ノートを用い、日々確認して内容を把握して頂いている。	月1回の職員会議や毎日の申し送り、職員間の連絡ノートで職員の意見を把握している。備品等の更新、利用者への支援(ミニドライブの提案、ゲーム等)について多くの意見が出され、具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト表における公休、有休の希望や夜勤の回数、長期の休暇の要望にも対応するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修への参加は再開していませんが、オンラインでの研修に参加したり職場内での研修の機会を設けスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他事業者のグループホームの運営推進会議に参加させて頂き、情報交換している。また、逆に自施設の運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂く場合もある。楽器演奏会の招待も受けたが、日程の都合上参加できませんでした。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規でいらっしゃった利用者様には表情や行動から不安な点を察知し対応している。職員の対応も表情や声のトーンに留意し、不安を募らせないように心がけている。入居以前の情報をご家族からお聞きし、対応への参考とさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や事前訪問時に気になる事や不安な事を聞くようにしている。		

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に入居後のサービスの方針をお伝えし、職員とも情報共有し対応させて頂いている。2～3日経過後にご家族に電話連絡し入居後の経過を伝え、更にその状況に対しての情報があればお聞きし参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日に1度は利用者様の座席に同席し、会話やふれあいを持つ時間を取るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望により自宅に帰りたいと話された利用者様の要望に沿うため、夜間に急であったが外泊の対応を取って頂いた場合もあった。また、盛岡在住の娘さんに散髪をしていただく事もありました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の弟さんから衣類やおやつを送っていただいたお礼に手紙を書いたり年賀状を送っていただく事も有ります。	親戚や知人が定期的に訪ねてくれたり、年末には遠方の親戚が訪ねて来てくれ、双方とも再会を喜んでいる。ミニドライブで自宅周辺まで行くこともあり馴染みの場への訪問を欠かさない支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の場となるホール内での座席には細心の注意を払い、トラブルが起きないように気を付けている。また、各テーブルに最低2名づつ座るようにし、一人にならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を経て契約終了となるケースがほとんどだが、契約終了後も病院に面会に訪れたりご家族に連絡し情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴を特定の曜日にしたいとの思いやテレビの音が聞き取りやすい席を望まれる場合など柔軟に対応している。	利用者とは短時間でも傍に寄り添いコミュニケーションをとるように心がけその中で希望や意向を確認している。コミュニケーションが取れない方は表情やしぐさ等で希望を推察し対応している。	

令和 5 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や親戚の方に入居前の生活リズムや嗜好等を伺いその方の過ごしやすいサービス提供を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の排泄や食事の摂取状況、バイタルチェック等から個々の状態を把握し対応している。また、毎日のラジオ体操や軽運動にて心身の状態を見るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1名につき3か月に1度の割合でカンファレンスを行い、職員同士で話し合った結果を基に介護支援専門員が介護計画を作成している。日頃からご家族様からの要望をお聞きした上で介護計画に反映させている。	カンファレンス時に担当者だけではなく、参加した職員全員でモニタリングの状況について共有し、それを踏まえて介護支援専門員が介護計画を見直している。介護計画作成に当たっては家族の要望を確認し、見直し後の計画についても報告している。また、本社の登録看護師の助言や医師の指示も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録に毎日の状態を記録し、普段と異なる事案は更に日誌にも記録し申し送り時に報告するようにしている。介護支援専門員はその情報も含め介護計画に練り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の急な帰宅願望への対応等、その時の状況に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山田中学校の生徒さんの福祉体験の受け入れをし、グループホームの現状を体験して頂いた。近所の床屋さんに定期的に来所して頂き、散髪をして頂いている。ご近所の方から季節行事に必要な物品を提供して頂く事もある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前からのかかりつけ医を受診されていますが、心身の状態が悪化した場合にはご家族に状況をお伝えし、本人やご家族が望まれる病院を受診できる体制を取っている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診し、ほとんどが職員付き添いで受診し、結果は家族に報告している。町内の医療機関に限られるため、宮古市内や釜石市内への受診が多い。県立山田病院、県立宮古病院に協力医となっただき、状態悪化の際に必要な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度社内に配置された看護師が来訪している。体調や症状が悪化した場合には24時間体制で連絡を取れるようにし、緊急時にも適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に医師によるご家族への説明に立ち会い、看護師にもホームでの生活状況を伝え本人が安心して入院生活を送れるよう支援している。退院時は病院からサマリーにて情報を頂き、医師からは退院後の生活における注意点をアドバイスして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	町内に訪問診療を行っている病院が無い為、現状でホームでの看取り対応は行っていない。入居時に本人やご家族に対応できない旨をお伝えし了承を得ている。	町内には看取り対応の協力医がないため、終末期の介護は、ほかの施設への住み替えを基本とし、入居時に利用者及び家族に説明し了解を得ている。要介護3を超えた場合には特別養護老人ホームへの入居申し込みを行っていただいている。施設内での看取り経験はないが、終末期の介護は看護師の指導を得て対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修において緊急時対応のスキルアップを図っている。また、実際にあった緊急対応については後日職員間で話し合いを持ち、対応の流れを見直している。		

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定訓練と年1回の水害想定訓練を行っている。ホームの2階部分を避難場所とし、高齢者等避難情報が発令された場合には対応している。ご近所様には火災発生時の手助けをお願いしている。	総合訓練を10月に実施し3月には夜間想定訓練を予定している。水害想定訓練は事業所の2階部分を避難場所として訓練している。万が一火災発生時には近隣住民の複数人と他のグループホームの協力も得ることとしており地域協力体制も整っている。備蓄として食料3日分、水、カセットコンロ、反射式ストーブ等を備えている。消防署の指導があり担架の導入を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の対応時異性への対応に抵抗がある場合には十分配慮し対応している。利用者への声掛けは優しく行うよう職員には周知しているが、咄嗟にきつい声掛けがあった場合にはお互い注意し合うようにしている。	個人情報事務所で管理され適切な取り扱いとなっている。広報誌掲載の写真は、予め家族の同意をいただき掲載している。排泄や入浴時の異性介助に関する相談も職員間で共有し、柔軟に対応している。居室に入室する際はノックや声掛けをしてし、言葉遣いについても管理者、職員間で注意し合う体制が整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様同士の会話やテレビを見ている時の言動等から希望する事を察知し可能な事は対応させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼寝や起床、就寝のタイミング等本人の思いに沿って対応させて頂いている。入浴の予定も本人の意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期にはご家族様に衣類の入れ替えをして頂き季節に合った服装を着て頂くようになっている。起床時、入浴時の着替えが可能な方は自身の好みにより行っている。美容師の娘さんに来て頂き散髪して頂く方もいます。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や山菜の下ごしらえは利用者様と職員で行っている。週に1~2回は利用者様と作ったおやつを提供し、誕生会やイベント時には手作りケーキを提供し喜んでいただいています。介助が必要な利用者様も増えて来て、会話をしながら食事を楽しんでいます。	朝夕の副菜は冷凍食品を活用し、ごはん味噌汁は手作りとしている。昼食は冷食1品と手作り副菜を提供し、その際野菜の皮むきは利用者にもお手伝いいただいている。おやつは購入のほか、ドーナツ、蒸しパン、団子等は手作りしている。季節の行事にちなんだメニューは家庭の味を思い出させ、誕生会の手作りケーキは利用者や家族に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分補給量を記録し、把握するようにしている。食形態も刻み食、ミキサー食必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄、うがいを行い、夕食後には義歯の消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し日々の回数やパターンを把握している。入院時オムツを使用していた方が退院後トイレでの排尿可能になった方もいます。トイレ内での排泄方法も促すようにしている。	個別に排泄チェック表を活用して、習慣やパターンに応じた排泄支援を行っている。そっと声掛けをし排泄を促している。4名のおむつ使用中の方にもトイレでの排泄を促し自立に向けた支援をしている。2名が自立し、1名が夜間にポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前の間食時ヨーグルトを提供しています。排便のパターンを診察時医師に相談し適切な下剤の量を調整して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴する順番や曜日にも本人の意見を尊重し対応させて頂いている。気が進まない場合には無理をせず日時をずらし対応している。	週2回午後に入浴している。入浴順番や長湯等の希望を取り入れたり、気が進まない場合は改めて別の日に設定するなど柔軟に対応している。苜蒲湯で季節を感じたり、入浴剤を用いて温泉気分を味わう等の工夫をし入浴中に歌いだす方や話がはずむ方が多く、職員との良いコミュニケーションの場となっている。入浴後は、保湿クリームなどを塗布している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は本人の望まれるタイミングで行っている。夜間の照明や居室の気温も本人の意向を伺い調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のために名前と服薬の時間帯を確認し飲ませる時に発声し対応している。処方に変更になった場合はその後の経過を観察し申し送りして報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯たたみ等の作業を行って頂き、作業後は感謝の声掛けを心掛けている。声の掛け方により達成感や喜びを感じて頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の為人が多い場所への外出は控えています。花見や紅葉ドライブ、その他町内の各地へのドライブへは出掛けている。お正月には近所の神社へ初詣に出かけている。	花見は宮古市内の桜の名所(さくらつつみ)へ、紅葉狩りにはやまびこ館(道の駅)にドライブで出掛けるほか、山田町内の海や新規オープンした道の駅にミニドライブに出かけることで季節を感じ、周辺の復興の様子を見て楽しく過ごしている。天気が良く暖かな日は玄関前で日向ぼっこをし、近所の方々との会話も楽しんでいる。ゴールデンウイークや盆、正月に自宅に外泊する利用者もあり、家族からも好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が現金を所持する事は不可となっておりますが、ご家族様から預り金という形でお預かりし、日用品やおやつを購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の要望があれば対応させて頂いております。ご家族から電話がかかってきた場合も同様に取り次いでいます。遠方の弟様からの手紙に返事の手紙を書かれる利用者様もおります。		

令和 5 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に注視し快適な空間を保っている。入浴時の脱衣場も電気ストーブで寒くならないよう配慮している。時間帯によっては日差しがまぶしい時があり、ブラインドで調整している。季節の装飾は簡単な作業は利用者様にお手伝い頂き作成し、概ね1か月に1度は交換し、季節を感じて頂けるようにしている。	1階2階のホールにエアコンが設置され、廊下とホールには加湿器が置かれ、室温や湿度を適性に管理している。2階には大きな窓が南側と北側にあり、十分な光が取り込まれている。1階の共通スペースには机、テレビ等が設置されテレビ視聴やゲーム等で楽しく過ごしている。壁には利用者の作品や季節の装飾がされ、季節を感じていただけるよう配慮されている。次は季節飾りのミズキ団子を予定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の会話や職員との会話からの情報を基に座席配置を決定している。利用者間でトラブルがあった場合は座席の変更を職員間で検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室にコルクボードを設置し、写真や作品を貼って観て頂いている。新聞の切り抜きを貼っている方もおります。ぬいぐるみや遺影を配置されている方もいる。	エアコン、ベッド、タンス、クローゼットが設置され、必要に応じテレビ、机やいす、衣装ケースを持ち込んでいる方もいる。タンスの上やコルクボードには、それぞれ、家族の写真や自分の作品、新聞切り抜きの大型ポスター(大谷翔平の写真)が貼られ、居心地のよい居室となっている。部屋は花の名前で表示され、個人名も貼付している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等には誘導札を設置し目視にて確認できるようにしている。1階⇄2階の移動はエレベーターを利用している。		